

[SPF 豚農場紹介]

長崎能力開発センター

本農場を紹介するに先だち、第三セクター職業訓練法人・長崎能力開発センターの概要について簡単に説明致します。

当センターは昭和62年に精神薄弱者を対象として、その特性に応じた能力開発訓練を行うことにより、就労及び雇用促進、定着を図ることを目的に設置されました。訓練について十分なノウハウを持つ民間企業等と地方公共団体とが一体となった第三セクター方式によって、すでに開校後5年を経過し、80名の入達が食品製造業、卸売業、食肉処理業等、約40社の企業に就職し自立生活を送っています。

訓練内容は、大きく分けて能力開発訓練と生活訓練の2つに分かれます。能力開発訓練は、職業能力開発促進法に定める職業訓練基準に基づいた、生活学習や実際の作業を通じ、就労上基本となる労働習慣等の習得により職業能力を開発し、雇用労働者として継続就労できる能力を育てます。訓練科目は、麵製造科と畜産科の2科目でそれぞれ10名の定員です。麵製造科は、約500㎡の製麵工場において実際の企業に、より近い環境の中で、素麵の製造を通じ職業訓練を行います。カケバ機、イタギ機などの機械作業により、手先の巧緻性、機敏性、判断力等を高める技能開発訓練が中心となります。畜産科は、6棟の豚舎を備え母豚70頭の一貫経営、総頭数700頭のSPF(清浄)豚の飼育を通じて、職業訓練を行います。SPF豚専用の豚舎であり、徹底した衛生管理のもと、給餌、豚房内清掃など、自然の中で動物に触れ合

う実技訓練は、基礎体力向上、労働習慣、責任感の形成に大いに効果を上げています。

1. 畜産科の経緯

昭和62年7月から、SPF種豚70頭導入後初めての分娩が、同年の11月より始まり、訓練生の看護分娩で、分娩時の事故は少なく、離乳頭数も予想した以上に良い結果が出ています。初出荷は、昭和63年4月より始まり、出荷日齢が152日と、驚く程の早さであったが脂肪が厚すぎる状態で、制限給餌を強め現在は、6カ月(180日齢)での出荷で、安定した枝肉ができるようになった。

精神薄弱者については、何もできないと思われる方が多い様ですが、実際はやらせてもできないという理由で、何もやらせてもらえず経験不足でできない事が多いのです。知的なハンディは持っていますが、色々な事を経験する事により、本人が自信をつけ、何にでも意欲的に取り組む様になります。色々な事を覚えるのに時間は要しますが、一度覚えてしまえば、間違わずに継続して行えます。仕事内容も少し工夫すると、本人達のできる事が沢山あります。例えば各豚舎の給餌も給餌器、給餌車に番号をつける事で間違うことなく餌をやれます。この様に少しの工夫で色々な事ができる様になり、本人の自信につながります。

管理面においては、訓練生が各豚舎ごとに責任を持って管理に当たっており、細かな所まで確実に行っている。畜産科の管理を始め2カ月もすると、母豚移動も上達し、自分の思う方向へ移動する事

ができる様になります。家畜飼育の基本である愛情を持って飼育する面でも、よく母豚をブラッシングしたり、ケガまたは状態が悪い豚がいるとすぐに報告してくれます。この様な事が今までの成

績となって表われている様です。

昭和62年7月から平成4年3月までの実績は次表の通りです。

S62. 7~S63. 3 () 雄豚

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
導入豚頭数				35(5)	35(5)								
稼働豚月末頭数								70(7)	70(7)	70(7)	70(7)	70(7)	70(7)
分娩頭数								2	3	15	14	11	45
総産子数								28	33	165	168	121	515
(1腹当り)								14	11	11	12	11	11.8
離乳頭数								27	31	156	141	113	468
(1当り)								13.5	10.3	10.4	10	10.3	10.9
出荷頭数													

S63. 4~H1. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
導入豚頭数				10(1)		10	(1)						
稼働豚月末頭数	70(7)	70(7)	70(7)	70(7)	70(7)	70(7)	77(8)	75(8)	75(8)	80(8)	80(8)	80(8)	74(8)
分娩頭数	14	19	12	17	11	16	14	14	20	14	17	16	184
総産子数	155	210	140	186	133	180	156	145	230	172	178	180	2,065
(1腹当り)	11.1	11.1	11.7	10.9	12	11.3	11.1	10.4	11.5	12.3	10.5	11.3	11.3
離乳頭数	152	203	135	180	129	172	150	141	222	170	174	176	2,004
(1当り)	10.8	10.6	11.3	10.5	11.7	10.7	10.7	10	11.5	12	10.2	11	10.9
出荷頭数	8	14	53	136	139	139	132	158	170	178	147	173	1,419

H1. 4~H2. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
導入豚頭数			(2)		10(2)							10	
稼働豚月末頭数	80(8)	80(8)	80(8)	80(9)	80(9)	80(10)	80(10)	85(10)	83(10)	83(9)	80(9)	80(9)	81(9)
分娩頭数	19	20	14	20	16	21	16	10	17	14	21	16	204
総産子数	220	222	176	230	191	235	180	115	193	166	253	190	2,371
(1腹当り)	11.6	11.1	12.6	11.5	11.9	11.2	11.3	11.5	11.4	11.9	12	11.9	11.7
離乳頭数	212	213	170	225	183	227	172	106	186	157	245	183	2,279
(1当り)	11	10.7	12	11.3	11.4	10.8	10.7	10.6	10.9	11.2	11.7	11.4	11.1
出荷頭数	142	160	150	146	153	167	172	154	220	180	198	185	2,027

H2. 4~H3. 3

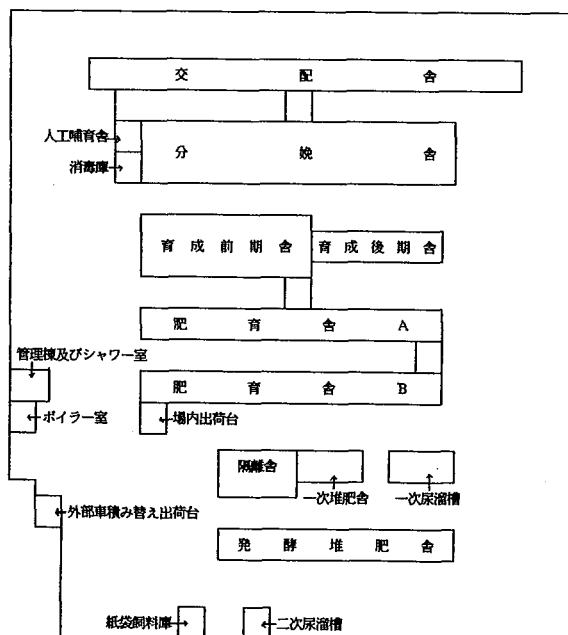
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
導入豚頭数	(2)					10		(2)		10			
稼働豚月末頭数	80(9)	80(9)	85(9)	85(9)	83(9)	80(9)	80(9)	85(9)	85(10)	85(10)	85(10)	85(10)	83(9)
分娩頭数	15	18	16	22	20	18	16	22	17	17	15	18	214
総産子数	156	200	163	230	210	191	183	252	198	205	156	215	2,359
(1腹当り)	10.4	11.1	10.2	10.5	10.5	10.6	11.4	11.5	11.6	12.1	10.4	11.9	11
離乳頭数	134	192	155	223	201	183	175	249	188	195	146	203	2,244
(1当り)	8.9	10.6	9.7	10.1	10.1	10.2	10.9	11.3	11.1	11.5	9.7	11.3	10.5
出荷頭数	158	186	153	169	178	152	201	206	188	168	184	196	2,139

H3. 4~H4. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
導入豚頭数			10(2)									10(2)	
稼働豚月末頭数	83(10)	80(10)	77(10)	75(10)	75(10)	85(10)	80(9)	80(9)	78(9)	78(8)	75(8)	75(8)	78(9)
分娩頭数	16	16	16	14	13	18	15	11	12	13	14	21	179
総産子数	165	171	180	152	135	192	160	123	130	132	158	235	1,933
(1腹当り)	10.3	10.7	11.3	10.9	10.4	10.7	10.7	11.2	10.8	10.2	11.3	11.2	10.8
離乳頭数	159	161	172	146	128	188	151	113	121	129	148	223	1,839
(1当り)	9.9	10.1	10.8	10.4	9.8	10.4	10.1	10.3	10.1	9.9	10.6	10.6	10.3
出荷頭数	196	201	178	217	144	111	205	205	161	146	134	159	2,057

2. 防疫管理

①農場レイアウト



②立ち入り制限

・農場周囲はフェンスで囲い、人・車・動物等の立ち入りを制限している。

③出荷

・場内の専用自動車をおき、場内出荷台より場外出荷台へ積み替える。

④場内へ入る場合

・場外で脱衣し、シャワーを浴び場内専用の服と長靴、帽子に着替えて入る。

⑤持込物の殺菌

・場内に持ち込む物はすべて殺菌灯において、殺菌後持ち込む。

⑥導入豚

・導入豚は、隔離豚舎で1カ月状態観察後、交配舎へ移す。

⑦ワクチネーション

- ・種豚・豚コレラ, 豚丹毒, 日脳, パルボ
- ・肉豚・豚コレラ, 豚丹毒

豚舎構造

<屋根>ガルバニウム, 断熱材 25%

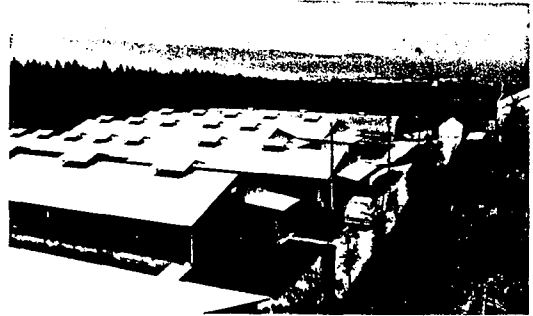
巻き上げ 2 段式カーテン, 分娩舎・育成舎 2 重カーテン

<交配舎>コンクリート床

<分娩舎, 育成前期舎>オールオープンワイヤー 1 部屋 6 豚房×6 部屋のオールイン, オールアウト方式

<育成後期舎, 肥育舎 A・B>コンクリート 一部スノコ, 除糞スクレパー

<育成前後期舎, 肥育舎 A・B>ウェットフィダー 全豚舎サイム設置



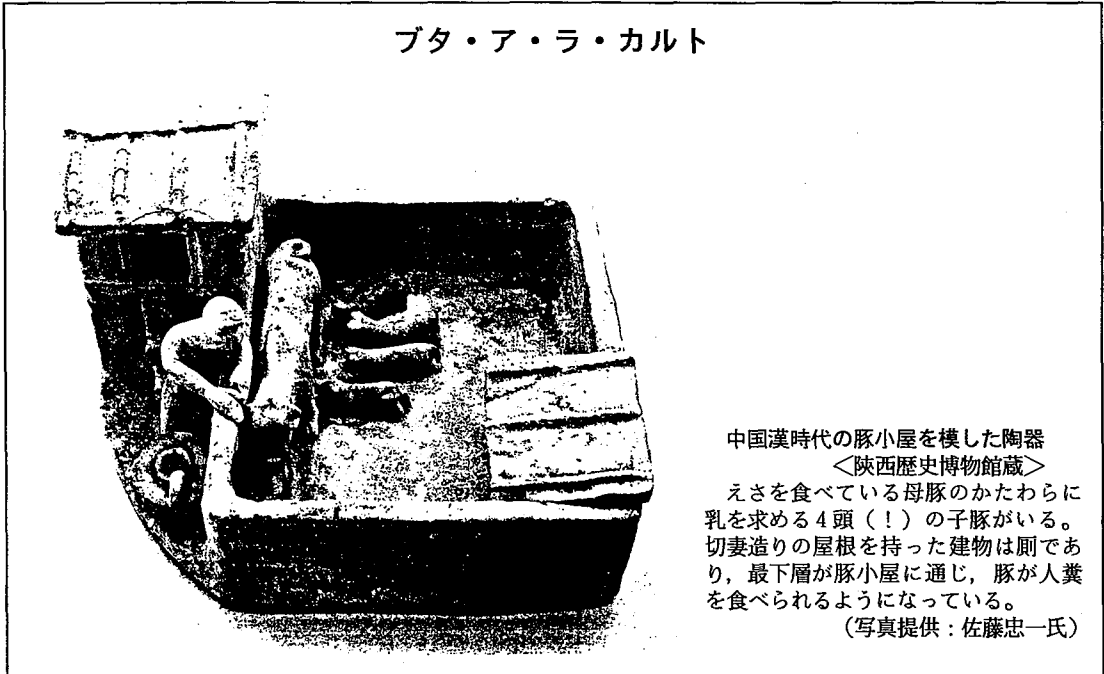
今後の課題

- ・母豚の成績が良く更新が遅れている為, 10 産を目標に更新を早める。
- ・肉豚の厚脂肪傾向を改善する。
- ・人工哺育器を有効に利用し, 現状の成績維持に努める。

文責:

畜産科長・森田和富

ブタ・ア・ラ・カルト



中国漢時代の豚小屋を模した陶器
<陝西歴史博物館蔵>

えさを食べている母豚のかたわらに乳を求める4頭(!)の子豚がいる。切妻造りの屋根を持った建物は厠であり, 最下層が豚小屋に通じ, 豚が人糞を食べられるようになっている。

(写真提供: 佐藤忠一氏)